

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271201301		
法人名	株式会社ワカバ		
事業所名	グループホームワカバまつど		
所在地	千葉県松戸市胡録台284-51		
自己評価作成日	令和5年2月28日	評価結果市町村受理日	令和5年7月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和5年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様やスタッフへ「思いやりといたわりの心で接する」ことを大切に、入居者様の意思を尊重しご自身のペースで過ぎて頂けるように努めております。入居者様が一瞬でも笑顔で過ぎて頂けるよう、そして「スタッフの笑顔を大切に」という理念のもと、笑顔で接するようスタッフ一同心掛けております。仲の良い入居者様同士で居室を行き来する様子も日常的に見受けられ、良い関係性が構築されております。重度化された方も寝かせっぱなしにせず、食事の時間は極力リビングで皆様とご一緒に召し上がって頂いております。そして、ホームから歩いて1分の場所には認知症対応型通所介護事業所、ホームの正面には小規模多機能型居宅介護事業所があり、3施設が連携することで、住み慣れた地域で顔なじみのスタッフとの関係性を維持しながら継続した支援が出来るようになっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は「スタッフの笑顔を大切に！朝の挨拶は元気よく！思いやりといたわりの心で接する」としてホーム内に掲示している。自立支援を徹底しており、食事の後片付け、掃除などを職員と一緒にこなしている。トイレ介助での職員の粘り強い時間をかけた支援により、ADLが向上した事例もある。残存機能を活かす良い取り組みだと思われる。契約医による月2回の往診と週1回看護師の訪問で健康管理をしている。24時間オンコール体制で病院と直接連絡が取れる。近隣に同法人のデイサービスセンターと小規模多機能施設があり、行事などは連携して楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念、サービス提供指針を玄関や事務所に掲示し共有しています。	理念は「スタッフの笑顔を大切に！朝の挨拶は元気よく！思いやりといたわりの心で接する」としてホーム内に掲示している。特に朝の挨拶と笑顔が職員に定着している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、定期的な交流は休止しておりますが、入居者との散歩時や出勤時に近隣の方と会った際には挨拶や会話を交わし交流に努めています。	町内会に加入しており、コロナ禍以前は草むしりにも参加していた。近隣住民とは散歩に出た時に挨拶したり、花をもらうこともある。傾聴ボランティアを受け入れ、同法人のデイサービスで認知症カフェを開催する際はホームからも手伝いなどで参加をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページのブログにて施設の活動報告を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営推進会議の開催は控えていますが、電話や書面にて入居者家族への定期的な報告およびご意見を伺い、サービス向上へ活かせるよう努めています。	今年度は書面での報告としている。報告先は家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター担当者である。入居者の状況、行事報告、ヒヤリハット・事故報告などを行っている。また、参加者からの意見をもらい対応をしている。	書面開催の機会に利用者家族をはじめ、広く参加者を増やし、出された意見をホームで検討してフィードバックするなど、双方の会議として活性化を図ることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政窓口への手続きの他、地域包括支援センターへの定期訪問や地域包括会議に参加し協力関係の構築に努めています。	市の介護保険課や高齢者支援課は、直接訪問したりメールや電話などでやりとりをしている。地域包括支援センターとは運営推進会議を介して相談し、意見をもらっている。介護相談員の訪問を再開しようと検討をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な社内研修を行い、禁止となる行為を正しく理解し実践できるよう取り組んでいます。安全確保と防犯上の観点からフロアと玄関の施錠を行っています。	「身体拘束廃止に関する指針」を策定し、定期的な研修をして職員に周知している。身体拘束等適正化検討委員会を3か月に1回実施して、現状について話し合っている。スピーチロックなどが見られた場合には職員同士で注意をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で日頃から強い口調や言葉使いをしていないか意識し、言葉による抑制をしないように注意している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で制度の新たな知識を理解するように努めています。必要に応じて、ご家族様からの相談に対応したり情報共有を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書の読み合わせを必ず行い、入居者様やご家族様に分かりやすい言葉で丁寧に説明し、契約内容を正しく理解して頂けるよう説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍による対面での運営推進会議の見合わせから外部とのかかわりが少ない状況ですが、電話や書面にて頂戴したご意見で良いものは積極的に取り入れるようにしています。	家族からの意見、要望は、通常の面会や介護計画策定時などに電話等で聞いている。面会に関する要望なども検討して対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個々との面談やスタッフミーティングにて意見の吸い上げを行う以外に、日々全職員と話すことを心がけ、職員が管理者に話しやすい環境になるように努めています。	職員には毎月のスタッフミーティングで意見を出してもらっている。日常的にも管理者が意識して意見を聞くようにしている。おむつの置き場などについて意見があり、改善した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に応じた基本給の他、資格手当・経験年数に応じた手当支給・保育支援制度・キャリアアップ支援制度などを設け、職員の働きやすい環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、本社での毎月の責任者ミーティングやホームに来所した際は職員との会話を通じて職員の状態把握をしています。新規採用者は、研修期間を設けてトレーニングをしている。職員同士で教えあうことによってお互いのスキルアップにもなっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市認知症高齢者グループホーム協議会ではオンライン研修に参加。また、地域ケア会議に参加するなどをしています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に声掛け、あいさつ、会話を心掛け、入居者様の思いや心配事などに耳を傾け、スタッフ全員で共有できるように1日の申し送りや連絡ノートに記録し目を渡欧すことで、より良いサービス提供できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来書されたときや電話があった時には話をよく聞き、不安に思っていることや要望を聞き「日常生活」を伝えられる範囲でお応えし、それを全スタッフが把握することで関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対話を重視しご本人、ご家族の望む支援を見極めて、「昔の写真」「思い出の品」等をご家族にお持ちいただき、思い出話をができるきっかけを作り、ご本人にとって最適なサービスを行うように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日、それぞれの入居者様の体調や様子を見ながら、その時出来ること「掃除、食器・テーブル拭き、洗濯物たみ」をお手伝いしていただいている。テレビ番組、新聞でのニュース、季節の行事や食べ物話題を楽しむように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所や電話時に日常の様子や健康状態を伝え、電話でお話しされる。月1度の介護連絡票で前月の様子を報告し、様子のわかる写真を郵送している。一緒に支えていけるような関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた家の近所の知人、友人などからの電話のとりつぎ、手紙なども楽しみにしておられるので、居室に飾ったり、代読したりと務めている。来所時には居室でゆっくり過ごしていただけるよう配慮しています。	面会は相談室を使い15分間、2名まで可能としている。同法人のデイサービスや小規模多機能施設との行き来があり、友人の来訪もある。電話をかける支援もして、関係性が継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれの性格を把握し、孤立しないよう平等に声をかけて努めている。それぞれの相性や行動範囲を考慮しながら座席を決め各自が自然と周囲の方と関わられるよう努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご縁を大切に、ご要望に応じて相談やサービス紹介などを行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にご本人やご家族の意向を聞くとともに、より心の深くにあるご本人やご家族の希望をお聞きするために信頼関係を築けるよう努めています。	入居前に、管理者が利用者の生活歴を家族から丁寧に聞き取りしている。段階を踏みながら、コミュニケーションを取って信頼関係を築くようにしている。職員間で情報を共有して、同じように関われるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報を共有し、スタッフ全員で情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居生活の中で観察し、生活のリズムやご本人の残存能力を記録し、スタッフ全員が把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録をもとに会議を色々な角度からご入居者をみて意見を出してもらっています。	週次や月次のミーティングで職員の意見を聞き、管理者が介護計画書に反映している。計画は半年に1回見直しており、状況が変わった時には随時見直しをおこなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡ノート、往診ファイル、受診ノートなど様々な記録と申し送りで情報共有をしている。また、現場スタッフの気づきをこまかに吸い上げることで介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人本位のケアができるよう、希望があった場合には臨機応変に対応するよう取り組んでいます。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店や外食に行くなどを実施し、ご入居者ごとのニーズに合わせた支援を行っています。(コロナ禍のため現在は中断)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に指示を仰ぎ、対応できない場合は対応可能な病院へ同行している。ご本人やご家族から受診先の希望がある場合はご希望に沿えるように努めています。	月2回協力医の往診があり、24時間オンコール体制で指示を仰ぐこともできる。また、看護師が週1回訪問し健康管理をしている。専門医の受診同行は家族対応だが、難しい場合は職員が同行し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護を行い、小さな変化にも対応できるよう随時連絡を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な医療が提供されるようにご入居者の情報を提供している。ソーシャルワーカーと定期的に連絡をとり病状の確認や回復優先した上で早期退院できるよう情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にご本人様、ご家族様から伺い、施設で出来ることを説明している。重度化、終末期が近づいた時には担当医、担当看護師から説明を聞いたうえであらかじめご家族の意向をお聞きし、すべての担当者が共有しています。	看取りはおこなっていないが、「重度化した場合における指針について」を作成して説明している。ホームでの生活が難しくなり、医療対応が必要になった場合に家族と相談し、他の施設に移れるように支援したこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故対応について定期的に社内研修を行っている。イラスト入りのマニュアル作成したがスタッフ全員が実践できるまでには至っていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練、避難訓練を実施。災害にそなえ食品や装備を備蓄しています。	マニュアルを作成し、夜間想定も含めて避難訓練をおこなっている。水、1週間分の食糧と防災ボックス、充電器、発電機を備えている。近隣に同法人のデイサービス、小規模多機能施設があり、協力体制もできている。	近隣住民との連携を強化し、さまざまな災害を想定した訓練の実施も期待される。また、ホーム独自のBCP作成にも待たれる。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を尊重し、プライバシー保護のために日常の様子を観察し、ご入居者ごとにあった対応を心がけています。	職員全員があいさつを心掛けるなど、理念の実践に努めている。声掛けなどで気になる場合は、管理者と職員で話し合っている。個人情報の管理は、鍵が掛かる事務所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや希望を常に会話の中から見逃すことのないよう利用者の思いや気持ちを支援できるよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間で区切らず、一人一人のペースや気持ちに合わせ、ご入居様の要望に沿った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の汚れやさかさまに替えている場合はすぐに対応し、ご入居者の要望にあわせた支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスの栄養士がメニューを作成し、彩り、栄養バランスも良く好評である。片付けなども入居者様が手伝ってください。やりがいを感じていただいています。	食材は週末以外は毎日届けられ、職員が調理している。外食が難しいので、お寿司等をテイクアウトするなど、食事に変化をつけるようにしている。男性利用者も率先して片付け等をおこなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスの栄養士がメニューを作成し栄養バランス、量ともに良い。食事量水分量を記録して、スタッフ全員で把握し、その都度で一人一人の状態や習慣に応じた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けしご自身でできる方は見守りを行い、できない方は介助して口腔内の健康、清潔保持に努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンや行動、しぐさ等を把握し、声掛け、誘導トイレで排泄を行えるように支援しています。	自尊心に配慮しながら、声掛け、トイレ誘導しており、できるだけ自立に向けて支援できるようにしている。失敗した場合の声掛けにも留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分摂取を促し運動の声掛けやマッサージを実施し、個々に応じた予防に取り組んでいる。便秘がちの方には下剤の服用をし改善に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみリラックスできるように、入浴剤を使用したり、各自で出来る事自分で、できないことはスタッフが手伝う。個々にあった話題で、入浴中会話も楽しんでいただけるように支援しています。	一般浴と機械浴を設置しており、基本は同性介助とし、週2回程度の入浴支援をしている。浴室と脱衣室の温度差がないように気を付けている。また、ゆず湯等で季節を感じるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝時はカーテンを閉めたり、エアコンで室温を調整して快適に過ごしていただけるようしている。乾燥した時期には加湿対策として濡れバスタオルを掛け乾燥予防しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬時は必ずスタッフ同士でダブルチェックを行い、誤薬や飲み忘れがないようになっている。記録を確認し薬の変更があった場合には、状態の変化がないか経過観察を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中できる範囲でお手伝いをお願いしている。ご入居者も役割が出来たことで日々の生活の中で張り合いを感じていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり外出機会は少ないですが、お正月に歩行できる方は神社へ参拝に行きました。施設の隣に先月リハビリ庭園が完成したので、完成後利用しています。	外出の機会が少なくなっているため、天気の良い日には、ウッドデッキやベランダで外気浴をしている。また、個別支援として、本の好きな利用者につき添って、職員が近くの書店に買い物に行くなどしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者が買い物に出かけるときは同行し、ご本人の財布をお渡しして買い物をして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話が掛けたいと要望があれば、ご家族の都合をお聞きしてから、連絡をとるようにしている。手紙については代読を行ったり状態に合わせた支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	午前中と夜間清掃をして清潔を保ち、リビングやトイレ、浴室などご入居者が重なりご利用される場では、適宜消毒を行っている。壁面には季節や行事を感じられるような飾りつけを行っています。	ウッドデッキに通じる共用空間は1時間に1回換気をし、利用者と一緒に清掃するなどしており、清潔である。また、テーブルといすのほかソファなどもあり、思い思いにくつろげるようにしている。死角になる場所にはカメラを設置し、事故防止につなげている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やレクリエーションなどを行うリビングでは、気の合うご入居者同士が同じテーブルになるよう座席を考慮している。ご入居者の状態により、テーブルから離れたソファをご利用していただけることで独りの空間を作るなども行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居前の生活空間をなるべく継続できるようご家族と相談し、家具の配置を行い、持ち込めるものはなるべく入居時に配置して頂くようにしています。	仏壇や馴染みの家具、写真などを持って来て、それぞれが安心して過ごせる居室としている。各ベッドには睡眠センサーを設置し、睡眠状態を確認できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間において、バリアフリーな環境になっています。死角の通路部分はモニターにて安全確認ができ、安心した生活を送れるようになっています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと